

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

宮城県白石市
が応援するふるさと名物

こけしとロクロ応用品
～めんこいこけしのふるさと～



わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

しろいし
宮城県白石市

地域の
プロフィール



白石市は、宮城県の南端に位置し、西に蔵王連峰を望み、東は阿武隈山系に囲まれ、西から東へと清流白石川が流れる豊かな自然と清らかな水に恵まれた城下町です。

市の中心部には、伊達家重臣片倉小十郎の居城であった白石城をはじめとした歴史的建造物があり、市内を流れる掘割の水とともに城下町の風情を今に伝えています。

また、白石市は交通の要所であり、仙台市と福島市の両県庁所在地の中間に位置します。東北新幹線の駅と東北縦貫自動車道のインターチェンジがあり、利便性も良好です。

スキー場や温泉が立地し、名所旧跡も多く所在する白石市は、交流人口の拡大を掲げてまちづくりをしています。

主な地域資源 宮城伝統こけし

白石市は市域の約7割を山林が占め、長い歴史を誇る温泉地もあることから、子どもの遊び道具、土産物として江戸時代末期よりこけしが生産されてきました。このこけしは産する集落の名を冠し「弥治郎こけし」と呼ばれ、伝統こけしの系統のひとつに数えられています。

また、白石市では戦後、新型こけしが発祥し急発展しました。

こうした経過を受け、その更なる振興を図るべく昭和34年、上皇さま・上皇后さまのご成婚を記念し、第1回全日本こけしコンクールが催されました。

その後も全日本こけしコンクールは時代の変遷を乗り越え、伝統こけしと新型こけしをはじめとした作品が一堂に会する日本最大級のこけしの祭典として、平成30年には第60回を迎えました。

また、こけしの里である弥治郎地区に立地し、平成6年に完成した弥治郎こけし村は、平成30年にリノベーションを終え、こけしの収蔵展示や普及啓発、技能伝承の拠点として新たな展開をしています。



全日本こけしコンクールの様子



リノベーションされた弥治郎こけし村

ふるさと名物の内容①

◆弥治郎こけし

宮城伝統こけしの1系統。

頭が大きく、頭頂には豊かな色彩で二重三重のロクロ模様を描くことに特徴があります。胴模様にも幅広いロクロ模様を入れたり、花とロクロ模様を組み合わせたものなどがあります。

構造はさし込み式とはめ込み式の二種類ありますが、ペッケと呼ばれる小寸物は作りつけであり、胴の中ほどがくびれているものが多いです。



頭部にベレー帽の様なロクロ線が描かれているのが特徴です。

◆伝統こけし

伝統こけしは「系統的な伝統性があり、師弟関係が明確であるもの。且つ、その工人が制作した本人型も含む。」と定義されています。

系統は諸説ありますが、白石市では10系統に分類しています。

弥治郎こけしもそのうちの1系統です。



ふるさと名物の内容②

◆新型こけし

新型こけしは「量産可能で市場性のあるもの」と定義されています。

分業による生産で量産が可能なほか、自由な発想で形態を工夫したり、何本か組にして一作品にしたりという特徴があります。

◆創作こけし

創作こけしは「一品制作で芸術的価値のあるもの」と定義されています。

「こけし」であるため、ロクロまたは旋盤を使用するという制約はありますが、その制約を一品作品として独創的に表現する点に特徴があります。

◆木地玩具

木地玩具は「ロクロ技術を主体とした玩具」と定義されています。

独楽やえじこ、雛こけしなど子どもの遊び道具から可動部の多い複雑な機構をもつ大人の鑑賞に堪えるものまで、多くの種類があります。



市町村の取組

◆全日本こけしコンクールの開催

こけし工人の発表の場やこけしのPR、販売促進に資するため、今年で第61回を迎える日本最大級のこけしの祭典「全日本こけしコンクール」を引き続き開催していきます。

◆弥治郎こけし村の活用

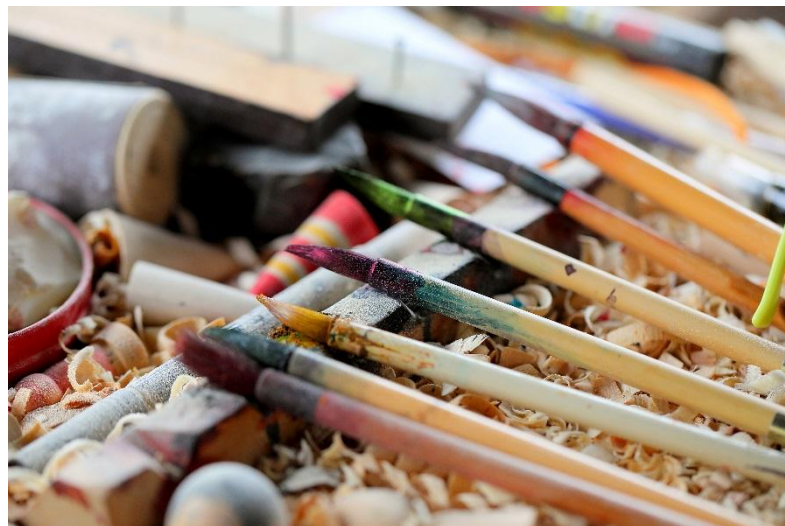
昨年リノベーションを終えた「弥治郎こけし村」が行うソフト事業へ支援を行い、誘客促進と収益増加を図っていきます。

◆こけし工人育成・販路拡大支援

次代を担うこけし工人を育成し、物産展などでの販路拡大を図っていきます。



全日本こけしコンクールは毎年大勢のこけしファンで大賑わいです！



弥治郎こけし村では、こけしの展示・即売の他、絵付け体験も行っております！